

日時 平成 29 年 2 月 14 日 (火)  
午後 7 時～9 時 5 分  
会場 同窓会館 1F 会議室

出席者

(協議会委員) 笹倉千里様 堤珠美様 楠本治様 古川広宣様  
(学校事務局) 准校長 教頭 主査 首席 記録

<次第>

1 開会挨拶、准校長挨拶

2 協議

(1)本校の現状について

・平成 28 年度学校経営計画及び学校評価について

学校経営計画及び学校評価は、毎年度策定してその年度末に評価及び点検を行い、次年度の経営計画に反映しているものである。

本校が目指す学校像は、「多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味関心に応じた特色ある教育活動を展開し、生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情や自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。また、地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる学校づくりを充実させる」ことである。

本年度の取り組み内容および自己評価については、学校教育自己診断の結果およびアンケート結果に基づき准校長がまとめた内容となっている。

自己評価の確かな学力の育成については、生徒の授業満足度が昨年度よりも下降している。生徒の学力や興味・関心に応じた指導方法の工夫に取り組んでいきたいと考えている。学力診断テストの正答率は、前年度よりも上昇している。基礎学力の定着に向けた、計算問題や漢字の読み書きを今後も継続していきたいと考えている。授業満足度が低いことに関しては、教員の意識としては創意工夫をしながら授業をしているが、生徒の受け取りが低いため、視覚に訴えかけるような ICT 機器の活用や、教材の工夫をしていく必要があると考えている。

生徒の規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに関して、学校に対する満足度は減少している。しかし、「クリーンキャンペーン」という近隣のごみ拾いには延べ 26 人が参加しており、地域の方からお褒めの言葉や、ねぎらいの声かけを頂き、自尊感情や自己有用感を得ることができている。また、高槻支援学校との協同学習を実施しており、バーナーワークや自動車実習等で交流を図り、協力・協調することの大切さを学べた。資格取得数については、年間延べ 111 であり生徒は自信が付き、キャリア意識形成に役立っている。中退防止コーディネーターを中心とした生徒支援プロジェクトチームによる支援体制を整備し、生徒の居場所づくりに努め、延べ 359 名の利用があった。また、SSW と連携し個別のケース会議 52 件、SC も含めたコア会議を 18 回実施した。学校の教員だけでなく、SSW、SC も関わり悩みへの相談、個々の対応にあたっている。

学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくりに関しては、担任以外に相談できる先生がいるというアンケート項目が昨年度より上昇しているが、更なる生徒の信頼を得られるよう努力したいと考えている。保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は 81% であり、教員が生徒に関しての情報を、家庭に対して連絡・相談の徹底ができていると考えている。また、農園へ招待した団体数は 13 団体であり、地域の方々や園児からも理解や意義を得られた。

学校運営体制の確立と教職員の資質向上に関しては、教育活動について、教員間で日常的に話し合っているというアンケート項目が昨年度より上昇しており、今後も日常的に話し合える職場を形成したいと考えている。学校教育自己診断に関するの次年度の計画に活かしているというアンケート項目は、昨年度より減少しており、今後改善点等を議論していきたいと考えている。

校内研修に関してはLGBT、いじめ、ICT活用・人権等さまざまな研修を設定しており、今後も継続して実行していきたいと考えている。

全体を見渡し今年度に関しては概ね達成できていると考えているが、生徒の評価と教員評価に差があるため、もっと生徒に寄り添った指導をしていきたいと考えている。

#### ・平成29年度学校経営計画及び学校評価（案）について

平成29年度学校経営計画及び学校評価については、今年度の評価を活かし文言の修正を行い、今年度と同じような内容で進めていこうと考えている。

#### ・授業アンケート（2回目）の結果について

昨年度と比べると少し下がっているところはあるが、大きな変化は見られない。教頭、准校長で全教員の授業見学を実施したが、授業内容の工夫、視聴覚教材の活用、コミュニケーションを密にとっている先生が多い。更なる興味・関心を引けるような授業内容・教材準備に取り組んでもらいたいと考えている。

#### ・学校教育自己診断の結果について

学校教育自己診断は、生徒・教員・保護者に対して昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施している。生徒の解答では、将来の進路や生き方、命の大切さ等について前年度より7項目が上昇している。保護者の解答では、学校は教育方針や生徒指導の方針等への理解について前年度より13項目が上昇している。教員の解答に関しては減少している項目はあるものの、全体的に改善が見られている。

#### ・今年度の取り組み報告

- 1、様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業ではSSWの活用について説明が行われた。
- 2、体験的な学習の実施では、太子町ぶどう農家にてぶどうの出荷作業従事の説明が行われた。
- 3、生徒向け講演会については、1年生は「お父さんは高校生」、2年生は「君たちに伝えたい命の鼓動」、3・4年生は「過労死防止及び労働法制について」の講演実施について説明が行われた。
- 4、今年度の成果

今年度の成果としては以下の項目等が挙げられた。

- ・アセスメントをもとにした効果的なケース会議が徐々に定着してきた
- ・被虐待生徒を発見した時には、迅速な対応がとれた
- ・連携ケース会議をもつことで、他機関の情報をもとに効果的な生徒支援ができた
- ・先生方の抱え込みが減少した
- ・先生方の保護者連絡、家庭訪問、職場訪問が増えた
- ・生徒のケースで、学年会議や教科担当者会議が行えた
- ・中学校との連携が深まった
- ・関係機関との連携が進んだ
- ・SSWを活用した校内研修により先生方の生徒支援に対する意識は確実に高まっている

## 5、次年度に向けての課題

次年度に向けた課題としては以下の項目等が挙げられた。

- ・安全・安心な学校づくり
- ・生徒支援体制の構築
- ・教員の生徒視点意識の向上
- ・スクリーニング方法の検討

### ・教育相談委員会活動報告

高校生活支援カードの活用やスクールカウンセラーの役割、教職員のコンサルテーションについて説明が行われた。また、新転任者向け校内研修では、学校業務を円滑に進めるためのさまざまな研修を行っている。

### ・平成 28 年度高卒編入生の成果報告、資格取得・検定合格・人数調査

高卒編入生が、三年間で取得した資格数について成果報告を行った。また、藤井寺工科高等学校定時制の課程として、2月14日現在で、受験者148名に対して合格者123名という成果が報告された。

## (2)その他、協議会委員より意見・質問

- ・授業アンケートの結果について他の学校と比べたりはしているのか？

⇒前年度との比較はできますが、他の学校と比べたりはしていません。提示しているアンケートの他に、それぞれの教員の全科目についても、アンケートに答えてもらっています。

- ・SSWの方が生徒と関わって何人ぐらいの生徒がいい方向に意識の変化がみられたのか？

⇒現在では4・5人。SSWの方は一人でやっておられるのでそんなに多くの数は抱えきれないが、最大限できることはやっています。また、SSWだけでなく、SCや生徒支援コーディネーターも含め生徒支援の充実を図っています。

- ・授業アンケート等をずっと続けてやっている意味があるとは思いません。説明をされたところで詳しく分析して理解することができません。それよりも今回の学校協議会などで学校としての取り組みを更に発信していく方が良いと思いました。

⇒授業アンケートの意味等については、学校側は生徒の意見を直接反映させるために、教育庁の指導のもと実施しております。

- ・学校教育アンケート（教員用）で、「評価について話し合う機会が多い。」という項目の結果が昨年度より減少している理由は何ですか？

⇒本校は前期後期制であり、前期では生徒の出欠が話の大半を占めますが、評価については年度末に話し合う機会が多くなります。評価について話し合う機会が少ないという結果が出ていますが、1月中旬頃より追認定補習や情報の共有なども含めた話し合いはしています。

## 3 閉会挨拶（准校長）